

# 超音波指導検査士（体表臓器領域）の導入に寄せて

自治医科大学附属さいたま医療センター 総合医学第1講座（臨床検査部） | 尾本きよか



乳癌診療において超音波検査は欠かすことのできないモダリティであり、超音波検査士がその中心的な役割を担っているが、近年さらに専門的な知識や高度な技術を持った指導検査士が必要とされている。日本超音波医学会において、今年度より乳腺領域においても体表臓器の指導検査士として新設されたので紹介する。

Ultrasound is an important modality in the diagnosis and treatment of breast cancer. The Japan Society of Ultrasonics in Medicine (JSUM) Registered Senior Medical Sonographer (RSMS) has been applied for in superficial organ from this year.

## ● はじめに

乳癌診療において超音波検査は欠かすことのできないモダリティの1つである。スクリーニング検査、良悪性診断、術前精査、治療後の判定など様々な場面で活用されている。この超音波検査を行うのは、ほとんどが検査技師であり、重要な役割を担っている。乳房超音波検査はその専門性から経験を積んだ検査技師が担当、従事していることが多く、一方で初心者への体系的な教育、研修は必要であり、全国的にそのニーズは高い。

超音波検査は通常、臓器別、診療科別に行われており、臨床医は専門科も持って診療に従事していることが多いが、検査技師はある診療科に偏ることなく多くの領域を検査している。しかしながら近年は領域別の専門的な超音波による精査を要求することも多く、ある一定水準以上の超音波工学、医学的知識や検査技術を兼ね備えた検査技師の育成、認定が必要となっている。

## ● 超音波検査士の領域別認定

それらのニーズに応えるべく、公益社団法人日本超音波医学会（JSUM）では、超音波医学並びに医療の向上を図ること等を目的に、超音波検査の優れた技能を有する看護師・准看護師・臨床検査技師・診療放射線技師を「日本超音波医学会認定超音波検査士」（「JSUM Registered Medical Sonographer」、略称「RMS」）と称して認定している。以下「超音波検査士RMS」という。この超音波検査士の認定は臨床領域別に行っており、現在「体表臓器」「循環器」「消化器」「泌尿器」「産婦人科」「健診」「血管」の7つの領域に分かれている。この「体表臓器」領域には乳腺、甲状腺などが含まれているが、中でも乳腺領域に携わっている超音波検査士の割合が多い傾向にある。

この超音波検査士RMSを取得するための受験資格は、以下の①～③を満たす必要がある。

- ①看護師、准看護師、臨床検査技師、診療放射線技師のいずれかの免許を有すること。
- ②3年以上継続して、本会の正会員もしくは準会員、または日本超音波検査学会

の正会員であること。

- ③本会認定超音波専門医FJSUMまたは指導検査士の推薦が得られること。

（Board Certified Fellow of the Japan Society of Ultrasonics in Medicine：略称「FJSUM」）

上記を満たした上で、取得したい領域の超音波検査実績（20症例）を提出するが、その際に超音波専門医などに内容をチェック、確認してもらう必要がある。「体表臓器」領域の20症例の疾患別内訳は乳腺疾患6例以上、甲状腺疾患5例以上、副甲状腺（上皮小体）・リンパ節疾患2例以上、その他となっており、乳腺疾患の割合が多い。この超音波検査実績を記載する際には、超音波所見だけでなく、他の検査結果、診断に至るまでの考察なども記述する必要がある、これまで経験した検査実績の内容が問われる。

この書類審査に合格すると、マークシート方式による筆記試験（「臨床領域」「医用超音波の基礎」）が課され、これらすべてに合格した場合に「超音波検査士（体表臓器）」として認定される。

これまで既に「体表臓器」領域の超音波検査士は延べ4,800名以上（250～300名/年）が取得しており、日本全国の医療施設における乳腺や甲状腺領域の超音波検査に携わり、活躍している。